

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2274201322		
法人名	(有)アートプロジェクト		
事業所名	グループホーム清水梅ヶ谷の家(2号館)		
所在地	静岡市清水区梅ヶ谷227番地の1		
自己評価作成日	平成30年8月20日	評価結果市町村受理日	平成30年12月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2018_022_kami=true&JigyosyoCd=2274201322-00&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室		
所在地	静岡市葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	平成30年8月30日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

主体法人の運営方針の傾向がもとで、当ホームの入居者様は生活保護を受給されている方が大半を占めています。それで必然的に、色々な福祉的問題を抱えた状態で入居されてきます。そういった利用者様やご家族が抱える問題を、様々な機関と連携を取りながら解決に導いていくことで、当ホームは社会福祉に貢献できているのではないかと思います。しかし、そういった事情の裏返しとして、ご家族との関係性が希薄な利用者様が多く、ご家族と共に支え合うネットワークを構築していくという面があります。また、地域との助け合い関係が出来ていないことも、随分前から解決できていない課題です。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

管理者は主に「法令遵守」や「利用者本位か」といったことに留意し、全般的にはボトムアップを方針としており、職員は比較的自主性に富んだ活動ができています。家族と疎遠な利用者が過半数を占めるなか「家族と一緒に」ということは難しいものの、リビングには「今日はどの職員?」「夜勤は誰?」と利用者から確認が入るほど、自分の好きな職員というのがはっきりしていて、馴染みの人の最たるは職員であることが覗えます。過去に何がしかの趣味を持つ人は少ないものの、職員が提供するレクリエーションに感化されるのか、年々自分の趣味としていく人もいて、牛乳パックの小箱づくりや折り紙、鞠づくりに励む利用者もいます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらい <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらい <input type="radio"/> 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2. 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3. 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
57 利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3. たまにある <input type="radio"/> 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに <input type="radio"/> 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている <input type="radio"/> 2. 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3. あまり増えていない <input type="radio"/> 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2. 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2. 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	梅ヶ谷の家の理念である「1. 明るい笑顔のあるホーム」「2. 家族のようなつながりを」を職員は共有し、毎日の業務の中で実践に取り組んでいる	法人理念は朝礼で確認する機会を持ち、事業所理念は平成25年から変更はなく3箇所に掲示されています。事業所理念については特別な取組みはないものの、職員の言動に参むほか、何より職員がそれを望んでいると管理者は捉えています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	町内の自治会に加入している。地域の防災訓練等の行事にはできるだけ参加しており、地域との交流に努めている。近隣に散歩に出て、出会う人たちと挨拶を交わし、顔馴染みの関係を築いている	地域行事の把握はありますが、「なるべく…」というやや消極的な取組みです。どんど焼きと防災訓練の2つの行事に出かけており、訓練では非常食の試食も体験しました。入口には大家さんが育てた夏野菜の路地販売スペースもあり、事業所の認知度アップにつながっています。	公民館活動(講座参加や文化祭出展等)やS型デイサービスなどとの交流が進むことを期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	来設されたご家族・ご親族や運営推進会議に出席された人に、ホームでのケアの実践を報告する中で、認知症ケアのノウハウを発信している		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年6回開催している運営推進会議では、当ホームにおける取り組みやサービス提供について、地域の福祉関係者や家族に報告し、それに対する意見やアドバイスを更なる質の向上のために活かしている	多いときには7名と、職員の出席が毎回あります。家族の母(ぼ)がもともと小さく自治会長が勤務者といった諸事情もあり、「やりくりがつくようなら協力してくださいね」との管理者の意向に応えての結果ですが、話し合いを通じて職員の知識も増え、育成の場ともなっています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	利用者様の大半が生活保護者である当ホームでは、生活支援課とは堅密な協力関係ができています。また、最近では、高齢介護課からも福祉的配慮が必要な方の相談を受けており、入居に至ることが多くなっています	生活保護の受給者が14名ということから生活支援課とのやりとりが密にあるほか、前述の背景もあつてか高齢介護課からの相談や問い合わせが入っています。介護相談員も月1回来所があり、家族数が少なく外部者に承認してもらえることが余りない職員の励みにもなっています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施設を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束0宣言をしている。社内研修では、特に近年、身体的拘束について取り上げる頻度を高めており、身体的拘束に関する職員の理解を深め、利用者様の尊厳を守るケアができるよう努めている	法改正に基づき身体的拘束適正化検討委員会を立ち上げ、6月に第1回目の会議を開催しています。現在対象となる症状をもつ利用者はいないため、協議内容は知識学習や確認に留まっていますが、法人が位置付けた研修会も年2回あります。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待については、これも近年努めて社内研修でしっかりと学んでいる。職員同士でお互いのケアを注意し合い、早いうちに虐待の芽を摘むことができるよう心掛けている		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度、日常生活自立支援事業を利用している利用者様が複数名入居されていて、その利用を通じて、制度の理解を深めている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約内容については、要点を十分に説明し、理解してもらっているか確認している。契約後であっても、利用者様や家族側に疑問が出てくるようなら、その都度丁寧に説明を行っている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族と疎遠である利用者様が多い中、面会に来てもらえるご家族の存在は貴重で、来設時にはできる限り話を聞くようにしている。	家族と縁が薄いこともあって、職員は家族のような存在となり、甘えたり、頼りにするような様子がフロアにはあり、介護計画書にも「よくしてくれる職員がいるので、その職員に関わってほしい」という要望が記載されています。嗜好アンケートもとり、ラーメンや寿司の提供が実現しています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の職員会議や日々の業務の中でのコミュニケーションを通して、各職員の意見を汲み取り、運営に反映させるようにしている	法人では職員負担に配慮して「3ヶ月に1度でもよい」としている職員会議を、必ず月1回おこない、情報共有を図っています。主に「法令遵守」や「利用者本位か」を注視し、全般的に管理者はボトムアップを方針としていて、職員は自主性に富んだ活動ができています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	労働条件については、法人は職員に分かりやすく開示している。給与水準についても、努力すればそれがそのまま給与に反映されるような体系が整えられている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内では、定期的に各種の研修を行っている。また、法人外で行われている研修も、職員に対して随時紹介している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	入退居時の関わりや、勉強会への参加等の機会に他事業者とのネットワークを築き、情報の交換を通して自施設内にとどまらない視野を持てるよう努力し、サービスの質の向上につなげられるようにしている		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面談の中での本人とのコミュニケーションの中から、思いや希望、身体的・精神的状態を把握し、本人に寄り添ったサービスを提供できるよう努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時において、本人に対するサービスの導入とあわせて、家族の福祉的問題の解決に助力することで、良い関係づくりに努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の情報収集、本人や家族からの聞き取りの段階で、ホーム以外の事業所が提供するサービスを利用することが適切だと判断した場合は、公正にその旨を伝えるようにしている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ホームでの日常生活では、それぞれの利用者様にできることはやってもらい、できるだけ生活の主体としての立ち位置を失わないよう努めている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族に負担がかかり過ぎない範囲で、通院の介助等本人と関わる機会を願ひし、共に支えていく関係の構築に努めている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人のこれまで関わってきた人たちが、気兼ねなく面会に来てもらえるような、環境づくりを心掛けている	「今日はどの職員?」「夜勤は誰?」と利用者から確認が入るほど、自分の好きな職員というのがはっきりしていて、馴染みの人の最たるは職員であることが覗えます。過去に何がしかの趣味を持つ人は少なく、職員が提供するレクリエーションを段々自分の趣味としていく人もいます。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員は日常の業務の中で、それぞれの利用者様同士の相性を把握している。職員が上手に利用者様同士の関係を調整することで、フロアの間人間関係が良好に保たれるようにしている		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も、職員が移られた所に面会に行ったり、家族に様子を聞くなどして、継続的な支援に努めている。退居後にも、運営推進会議に参加してくれる家族もいる		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々共に時間を過ごす中で、本人の思いや希望を理解し、記録に残して職員間で共有している。本人が意向を適切に表明することが困難な場合は、表情や反応から、汲み取るようにしている	一仕事終わって利用者の隣に座り、その日のトップニュースや季節のことに触れ、気持ちの確認や希望把握となることが大半です。職員の中には「こんな話を聞きました」と丁寧に介護詳細記録にも残してくれる人もいて、他の職員の役に立っています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の本人や家族、各機関からのアセスメント情報、入居後の本人との会話の中から、生活歴を把握して、ケアに活かしている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の利用者様の生活の仕方、能力は聞き取りや日々の観察の中で把握に努めており、記録に残して職員間で共有されている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアの方針については、本人や家族の要望を聞き、また医療や行政関係者のアドバイスを反映しながら、立てるようにしている。また、月最低1回カンファレンスを行っており、支援内容の見直しをしている	「普段から関わっている職員がより具体的に収束している」と考え、介護職が本人の非言語を含み受けとめた想いや要望を介護支援専門員に届ける方式で介護計画書を作成して、特段介護支援専門員が一人ひとりの利用者に関わりはしていません。	現在の介護計画書は大変よく作られています。が、「計画作成担当者が利用者1名分でも任されて試行的に介護計画書を作る」といった、段階的な職員育成ができると、なお良いと思います。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の業務の中で気付いたこと、個々の変化は介護詳細記録や送りノートに記入し、職員間で情報共有している。必要に応じて行うケアの見直しに役立っている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族のニーズの変化に対しては、既存のサービスに当てはまらなくても、柔軟に対応するように心掛けている		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営については、地域包括支援センターや民生委員の方のアドバイスをいただいている。また、地域の自然環境を楽しめるような外出支援を行っている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームの提携医はあるが、利用者様側に希望があれば、それを尊重している。ホーム側からは本人の状態について適切に報告し、受診結果はホーム内で共有し、療養方針の決定につなげている	治療が必要な人には歯科医の訪問診療があり、概ね週1回医師の来所があります。内科、精神科ともに協力医が在り、全ての利用者が変更しています。通院介助は職員がおこない記録共有もあり、家族には面会や「梅ヶ家の家だより」で伝えていきます。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の看護師の訪問による医療連携の際、個々の利用者様の近況について報告し、医療的なアドバイスを受けている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、病棟や相談室と連絡を取り合い、治療の経過を把握し、退院後の受入態勢の構築に努めている。病院は新規の利用者様の紹介元ということもあり、定期的にご挨拶に伺っている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族とは、重度化した場合を想定し、早い段階から終末期のあり方について話し合う機会を設けている。ホームでは医療行為は行えないが、看取りをすることはできること等を説明している	食べれなくなっても栄養補助食品を代替とするなどして、本人と家族の希望があれば「なるべく此処で」と、看取りに取り組んでいます。ただし、実際は短期間に重度化する例が続き、ここ2年の実績はありません。	次の2点が叶えばなお良いと思います。 ①看取り加算を摂ること ②緊急時対応及び延命治療について家族と合意書面を取り交わす
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応マニュアルは、フロア内に常備されている。また、定期的な社内研修で、急変時の対応について学んでいる		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回実施している防災訓練は、1回は昼間想定、1階は夜間想定で行っており、併せて消防署の方に消化器の扱い方や応急手当の仕方等、災害時の対応について学んでいる。	年2回の防災訓練には備蓄チェックも併せておこなっています。昼間、夜間想定各1回ずつで、どちらか1回は消防署職員にも立ち会ってもらっています。開設から13年、11年勤務者も2名おり、長く働く職員がいることからの安心感においても高いものがあります。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様へは「～さん」付けで呼び掛け、人生の先輩としての敬意を込めた対応をしている。接遇の研修も定期的実施している。排泄や入浴の際には、利用者様の羞恥心に配慮した介助を心掛けている	食事の際に咳込む人の前に座る利用者に「心肺器官に疾患があるから…」と説明して両者の間をつないだり、鼻がでている利用者にとっとティッシュを届けたりといった、心遣い、気配りのある職員の動きを視認しました。	トイレに置いた私物に氏名が入っていました。イニシャルや居室番号等に替えると、良いと思います。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で、本人が思いや希望を表出しやすいような、職員との信頼関係づくりに努めており、本人の意思を確認した後に、必要な介助を行うようにしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日ごとに、大まかな一日の流れや予定は決まっているが、利用者様自身の希望があるときはできる限りそれを尊重して、柔軟に対応するようにしている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の経済状態が許す範囲内で、一緒に買い物に出掛け、自身の好みに合った服を購入していただいている。入浴の際の着替えの服も、その時々天候や気温に合わせて、本人に選んでもらうようにしている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	年に一回、食事に関するアンケートを実施している。また、普段の会話の中から、好みの食べ物や、逆に苦手とするものを聞き出し、メニューに取り入れるようにしている。準備や片付けは、日常的に利用者様に分担してもらっている	1階は野菜の副菜が2品ついた煮魚をメインとして、2階はシラスものつたちらし寿司、冷奴、煮物と、ユニット毎に趣のある献立が提供されています。「ちらし寿司にいたいものって何がある？」とリサーチしていました。冬には恒例の干し柿づくりもあり、利用者も楽しみにしています。	2階はテレビを消してBGMが流れていて、落ち着いた雰囲気でしたので、一度食事時の1階テレビの是非について振り返ることを期待します。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の利用者様の咀嚼能力、嚥下能力、適切な食事量、体重の変動等を考慮した上で、適切な食事を提供するよう努めている。水分摂取については、食事時と10時、15時+αで一日の必要量が確保できるよう、配慮している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、必ず口腔ケアを行っている。自分でできる利用者様には声掛けをし、介助が必要な方は口腔状態を確認しながら職員が行っている。週1回訪問歯科が来てくれていて、口腔内の治療や清潔保持を受けている		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、個々の方の排泄パターンの把握に努めている。トイレ誘導が必要な利用者様に対しては、時間や本人の様子を見ながら声を掛けている。排泄が自立している方については、健康的な排泄のリズムが保たれているか、随時確認している	排泄チェック表は全員つけていますが、必要に応じて内容の濃さが違って、重度化が進む人には細かく記録されています。立位、立ち上がりが自力では難しくなり、女性職員2名介助では身体を傷める可能性がでてくるケースでは、移設も視野にいれて家族と協議中です。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	職員は、便秘のメカニズムをしっかりと学ぶようにしている。便秘気味の利用者様には、食物繊維や水分の摂取、腹部のマッサージ、運動等を促すように働きかけている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の大まかな予定は職員側で決めさせてもらっているが、利用者様のその日の体調や希望に配慮して、順番を変えたり、別の日に繰り延べしたりして、出来る限り本人の希望に沿うように努力している	「毎日入りたい」「一番風呂がいい」といった要望はありませんが、あれば応ずる態勢にあり、概ね週3日湯に親しんでいます。拒否には手をかえ、品をかえています。最も効果的なのは本人の好きな職員が介助することのため、解決策は比較的単純で都度解決しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様の体調に配慮し、必要に応じて居室で休んでいただくようにしている。また、十分な休息、安眠が確保されるよう、室温や明るさ等環境の整備に気をつけている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者様の服薬の内容は、薬管理表に記録されていて、いつでも確認できるようになっている。用法を誤ると命にかかわる薬もあるので、連絡帳等を通して、全ての職員がしっかりと理解できるようにしている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様にも日常的に家事を分担してもらっていて、これは利用者様同士の関わり作りにも貢献している。季節ごとの行事や誕生会、ボランティアによる慰問を企画したり、ドライブや買い物目的の外出等で気分転換を図っている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候と本人の体調を見ながら、近隣への散歩の声掛けを行っている。買い物の希望がある時には、付き添っている。季節ごとに遠足の企画をし、皆で外出する機会をつくっている	春の花見、夏は清水七夕祭り、秋にはドリームプラザや大道芸、初冬の蜜柑狩りと、四季折々にリフレッシュを兼ねた外出企画が実施されています。職員がプライベートでの遊びを通じてバリアフリーなどの下見もおこなえています。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣いはホーム側で管理しているが、本人の希望に応じて、本人自身が自由に買い物ができるように配慮している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人から家族や友人に電話や手紙で連絡したいという希望があった時は、相手側の事情も考慮した上で、本人の希望に最大限に応えられるよう努めている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールの室温・湿度・テレビや音楽の音量・空気の入替・日当たり等、利用者様が快適に過ごせるような環境の保持に努めている。壁に利用者様が作った作品を掲示したり、スナップ写真を貼ったりして、温かみのある空間になるように演出している	窓の棧には利用者が育てる野菜が並び、壁には工芸的なレベルにまで達している折り紙作品が満載です。利用者の中には絵画の得意な人もいるほか、絵手紙講師のボランティア訪問も定期にあり、今月は銘々の茄子の紫色が光っていました。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う利用者同士が居心地よく過ごせるように、机やソファの配置、席決め等を状況に合わせて工夫している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	それまでの生活で愛用していた家具や小物の持ち込みは、スペースの許す限り受け入れられている。居室の使い方には特に制限を設けておらず、本人の身の危険につながらない限り、本人の思い出の品や写真を飾る等、好きなように使用してもらっている	ラジカセ、テレビがある居室もありますが、全ての部屋に共通して敬老会や誕生日には祝いの印として折り紙が贈呈され、温かみを感じられません。80歳花、81歳カブト虫、82歳鯉、83歳金魚、84歳番傘、85歳手鞠と手の込んだ作品が連なり、毎日の鑑賞に値する逸品です。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホームでは、床は段差がなく、また殆どの動線には手摺が設置されていて、安全に配慮したバリアフリー設計になっている。トイレや浴室には、その場所であると分かるように、大きな字で表示をしている		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2274201322		
法人名	(有)アートプロジェクト		
事業所名	グループホーム清水梅ヶ谷の家(1号館)		
所在地	静岡県清水区梅ヶ谷227番地の1		
自己評価作成日	平成30年8月20日	評価結果市町村受理日	平成30年12月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhou_detail_2018_022_kami=true&JigyosyoCd=2274201322-00&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室		
所在地	静岡県葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	平成30年8月30日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

主体法人の運営方針の傾向がもとで、当ホームの入居者様は生活保護を受給されている方が大半を占めています。それで必然的に、色々な福祉的問題を抱えた状態で入居されてきます。そういった利用者様やご家族が抱える問題を、様々な機関と連携を取りながら解決に導いていくことで、当ホームは社会福祉に貢献できているのではないかと思います。しかし、そういった事情の裏返しとして、ご家族との関係性が希薄な利用者様が多く、ご家族と共に支え合うネットワークを構築していくという面があります。また、地域との助け合い関係が出来ていないことも、随分前から解決できていない課題です。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

管理者は主に「法令遵守」や「利用者本位か」といったことに留意し、全般的にはボトムアップを方針としており、職員は比較的自主性に富んだ活動ができています。家族と疎遠な利用者が過半数を占めるなか「家族と一緒に」ということは難しいものの、リビングには「今日はどの職員?」「夜勤は誰?」と利用者から確認が入るほど、自分の好きな職員というのがはっきりしていて、馴染みの人の最たるは職員であることが覗えます。過去に何がしかの趣味を持つ人は少ないものの、職員が提供するレクリエーションに感化されるのか、年々自分の趣味としていく人もいて、牛乳パックの小箱づくりや折り紙、鞠づくりに励む利用者もいます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人本部の理念とホームとしての理念を職員全員が共有しており、理念の実現に向けて取り組んでいる		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地区の催し物があった時には努めて参加するようにしており、地域の人たちと関わる機会をつくっている。また、近隣を散歩する時には近所の方と挨拶を交わし、交流に努めている		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の人から相談があれば、ケアの方法や、介護保険制度の利用、施設入所等に関して助言し、問題の福祉的解決に寄与するようにしている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は定期的開催している。毎回一定の決まった方が出席してくれてはいるが、参加者がなかなかそれ以上に増えないのが課題である		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	生活保護を受けている方が多いという事情があり、区の生活支援課の担当者とは、よく連絡を取る機会が多く、協力関係を築いている		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については社内研修で定期的に取り上げていて、職員は身体拘束をしないケアについて正しく理解している。ただ、現在帰宅願望の強い利用者様がいて、職員が一人しかいない時間帯は、玄関の施錠を行っている		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についても社内研修で定期的に学んでいる。朝礼や職員会議では、グループ内で起きた具体的な事件を取り上げ、当ホームでは虐待が発生しないよう参考にしている		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者様の中には日常生活自立支援事業や成年後見制度を利用している方が複数いて、各職員は来設される担当者と話をする機会も多いが、制度の内容については、必ずしも全てが理解できているとは言えない		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前、契約時には十分な説明を行っており、納得してもらってからサインしてもらうようにしている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様には日常生活の中で、ご家族からは来設してもらった時や電話連絡の際、意見や要望を聞くようにしており、それを運営に反映させている		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝礼や職員会議の際職員から出た提案は、事案によっては地区の館長会議にかけたり、稟議書を上げて法人本部に諮ってもらうようにしている		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	ホームとしての収益が上がれば、それがダイレクトに職員の給与に反映される仕組みになっている。現在、法人本部の方針としてコスト削減ばかりに主眼がおかれていて、やりがいという面では問題があるかも知れない		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人本部の主導で、基本的レベルの内容の内外の研修を受ける機会は確保されているが、それ以上のところでは法人がタッチすることはなく、個々のやる気や意欲に任されている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	系列法人内部での他ホームとの交流は、よくある。地域の総合病院が主催する情報交換会に出席する等で、同業者と意見交換する機会は、まれにだがある		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居されてからしばらくは、職員側から意識的に話し掛け、好みや趣味、要望等を聞き出すようにしている。コミュニケーション能力の低い方であっても、働き掛けに対する反応を通して、その人がどうして欲しいかを理解するようにしている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時には、家族の抱えている生活上の課題に対して、できる範囲でアドバイスを行い、必要に応じて相談に乗ってくれる機関につなげるようにしている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた時点で、本人と家族が抱えている問題を最も適切に解決できるサービス、利用可能な社会資源について、公正中立な立場から助言するようにしている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人ができることは介助せず、出来るだけ本人自身にやらせようとしている。また、介護する対象としてでなく、色々な知恵や生き方を教えてもらえる尊敬すべき人生の先輩として、人間関係づくりをするように努めている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会に来設することが難しい家族が多い中、毎月ホームから家族に宛てて、近況を書いた通信を送っていて、本人との関係が途絶えないように努力している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人が面会に来てくれた時は、本人と心地良い時間が過ごせるよう気配りしている。馴染みの場所がホームより離れたところの場合は、家族の協力のない方の場合、なかなか行くことができていないのが現状である		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様自身は認知症等で人間関係づくりが上手くできなくなっているため、職員が利用者様同士の間に入り、お互いの利用者様が支え合うフロア全体の雰囲気づくりができるように努めている		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	別の施設に移られたり、入院したりした利用者様の退居後のフォローは、あまりできていない		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	自身の意向をはっきりと言ってくれる利用者様はむしろ少ないので、職員の方から声掛けをし、かつ希望を言いやすいような雰囲気づくりを心掛けている。それが出来ない場合は、本人の気持ちを察するよう努めている		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に、本人の生活歴をできるだけ収集するようにしているが、入居後も本人との日常的会話の中から、あるいは家族の話から本人のこれまでの人生について聞き出し、介護詳細記録に記録してケアに活かしている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様は日々体調が変化し、その日によって出来ること出来ないことも変わってくるので、毎日観察を怠らず、その情報を申し送りスタッフで共有するようにしている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	フロアでの毎日の業務の中で、少しでも気が付くことがあれば、本人を含めて皆で話し合い、また家族の来設時には意見を求め、本人にとって最適なケア方針を立てられるように努めている		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	本人の様子で特に変わったことがあれば、必ず介護詳細記録に記載しスタッフ間で周知し、ケアの見直しに活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様のニーズへの対応を、定型的な業務の枠の中でのみ考えるのではなく、同じ時間・空間で共に過ごす生活者同士という関係の中で支援を模索する姿勢を持てるよう、努力している		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自治会に加入しており、地域の動向についてはいつも情報を得ている。参加できる地域の活動には、出来るだけ協力するようにしている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	近隣のクリニックに協力医になってもらっていて、特別な希望がない限り、そちらにかかりつけになることに、同意してもらっている。Drは本人や家族の希望をよく聞いてくれ、急病・看取り時の往診にも対応してくれる		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回、訪問看護師に来設してもらっていて、療養上の適切なアドバイスを受けている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には病院関係者と随時連絡を取り、病状や退院の時期、受入態勢に必要なことを情報交換している		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	あらかじめ本人や家族の意思を確認し、重度化した時、終末期を迎えた時にどう対応していくか、事前の準備をするようにしている		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当や救急救命の訓練は折を見て行っているが、定期的とまでは言えず、もう少し訓練の機会を持っても良いと考えている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に防災訓練を行っていて、消防署の方が来てくれて色々なアドバイスをもらっているが、近隣の住民との協力体制は出来ていない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	周囲や利用者様自身の身に危険が及ぶような状況を除いては、その方の人格を尊重し、プライバシーを損ねないような対応に努めている		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様が思いや希望を口にしやすい雰囲気作りを心掛けており、できるだけ自分のしたいようにできるようなフロア作りを目指している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日常のことは職員側から無理強いすることなく、出来るだけ本人の意思を尊重し、希望に沿うように努めている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	希望がある利用者様については、服を選んでもらったり、髪型を整えるお手伝いをしたりして、おしゃれが出来るように支援している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事についてのアンケートを取ったり、直接希望を聞いたりしてメニューに反映させている。出来る人には、食後のお皿拭きをやってもらっている		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの好き嫌いや適切な食事を把握して、食事を提供している。食事が摂れない時には、食べやすいものや栄養補助食品で対応している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアについては、毎食後行っている。自分でできる方には、自分で行ってもらい、出来ない部分に介助している。出来ない方に対しては、全介助している		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	本人の自分で排泄する力をアセスメントし、介助や紙パンツ使用等の対応を決めている。排泄チェックシートを作成し、一人ひとりの排泄パターンを把握している。本人の様子を見ながら、トイレ誘導や声掛けを行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘傾向のある利用者様に対しては、水分補給や運動を促す声掛けをしている。また日頃から、食物繊維をしっかりと摂れる食事提供を心掛けている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の時間帯はホーム側で決めさせてもらっているが、利用者様に特に希望がある時は、その都度柔軟に対応するように努めている		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様の生活リズム、体調に応じて、適宜休養を取ってもらうようにしている。休養を取る時は、居室の明るさや温度設定等に配慮している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の薬管理表をつくり、何時でも確認できるようにしている。服薬に伴う体調の変化に注意し、記録に残すことで職員間で情報を共有している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	掃除や洗濯物たたみ、食器拭きといった家事を、能力に応じて役割分担してもらっている。季節ごとの外出支援や日常のレクリエーション等で、気分転換を図っている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は散歩に行ったり、外のベンチで外気浴を行ったりしている。また、買い物同行やドライブ、季節の遠足で、外出の機会をつくるようにしている		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人のお小遣いは、原則としてホームの金庫で管理させてもらっているが、本人の希望と能力に応じて、できる範囲で自分で買い物をしてもらっている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人から希望があれば、電話や手紙のやり取りが出来るように対応している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間の温度や音、光による刺激は、全ての利用者様にとって心地良いものになるよう、配慮している。折り紙やイラスト等の利用者様の作品をホールの壁に飾り、「利用者様のための」空間を演出している		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った利用者様同士と一緒に過ごせるように、ホールでの座席の位置に配慮している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の使い慣れた家具を、スペースの許す限り自由に居室に持ち込んでもらい、自分にとって過ごしやすい空間作りができるよう対応している		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりの位置、部屋の表示、明るさ等、至る所で安全と自立支援に配慮した環境に気を付けている		